令和7年度消費・安全対策交付金 評価概要一覧

（1）食料安全保障確立対策推進交付金（一般交付型）

目的	目標	目標値、実績値及び達成度				事業評価	
		目標値		実績値	達成度	判定	評価概要
Ⅰ　農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合	3.2%	1.9%	103%	A	当事業により、農薬の適正販売・適正使用に対する啓発強化が図られ、農薬適正販売・適正使用の意識向上に繋がっている。 今後も農薬販売店の立入検査や、農薬管理指導士認定、研修会等の様々な方法で、農薬の適正な販売・使用に向けた指導と啓発を継続して実施していきたい。
	海洋生物毒等の監視の推進	海洋生物毒のモニタリングの総実施数	25回	25回	100%	A	関係者と協議を行い、漁獲実態や養殖実態に合わせた調査定点と回数を柔軟に設定したことで、貝毒の発生状況の有無を確認することができ、人身被害の未然防止に繋げることができた。
Ⅱ　伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	家畜衛生に係る取組の充実度	106.4	127.7	120%	A	飼養衛生管理基準遵守状況の調査及び指導、防疫システムでの継続的な基礎情報収集等を実施することは、データに基づいたリスク管理や発生・まん延防止能力の向上に寄与したと考えられる。 また、多くの地域において、畜産農家への動力噴霧器、死亡獣畜保管庫等の防疫資機材の整備により、本事業を活用した多くの市町村において、農場での発生をゼロに抑え込むとともに、発生があった地域においても、感染拡大の防止に至らなかったことから、本事業の効果があったと評価できる。
	養殖衛生管理体制の整備	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合	100%	100%	100%	A	講習会等の開催のほか、診断・検査対応や啓発文書送付等により、目標を上回る養殖衛生管理指導を実施できた。
	病害虫の防除の推進	防除の困難な作物の防除体系や地域の実情に応じた総合防除体系等における防除に関する管理手法の現状値からの向上に関する指数	148	148	100%	A	現地実証試験の実施等により、県内におけるトマトキバガ等に対して役立つ総合的な防除対策に係る知見や技術が得られた。 また、県内で栽培が盛んなピーマン栽培において天敵を用いた病害虫の防除体系の普及が進む中、今後の課題になると考えられるアブラムシの薬剤抵抗性試験に関する知見や技術が得られた。
		総合防除の普及のための指導者の育成に必要な研修・講習への参加、当該研修・講習の開催等の回数	2	2	100%	A	当事業によりIPMアドバイザー講習会をに参加することで、農薬のみに頼らない、総合防除について技術的な助言を行う指導人材の育成に繋がっている。
Ⅲ　地域での食育の推進	地域での食育の推進	別紙のとおり				A	実施主体は、「宮崎県食育・地産地消推進計画」の推進において主体的な役割をになっており、食文化継承を目的とした料理教室や農業体験等様々な活動により、食育・地産地消の推進に係る重要な取組をなしたと考える。

（2）食料安全保障確立対策推進交付金（特別交付型）

目的	目標	目標値、実績値及び達成度			事業評価	
		目標値	実績値	達成度	判定	評価概要
Ⅱ　伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進 家畜の伝染性疾病の発生予防	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱の県内発生件数 0件	達成	適正	ASF・CSFがアジアの広範囲で発生拡大している中、宮崎空港においては就航する韓国便や台湾便の増便があり人や物の動きが増加したものの、水際防疫対策を強化することで県内農場での発生を防ぐことができたと考えられ、評価できる。
	家畜衛生の推進 野生動物の対策強化	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱の県内発生件数 0件	達成	適正	令和7年4月に県内の野生イノシシで豚熱の感染が確認されて以降、継続した発生が確認される中、野生イノシシへの豚熱及びアフリカ豚熱のサーベイランスを強化することにより積極的なウイルス浸潤状況の把握を行うことは、農家段階での家畜伝染病発生予防に有効であり、R7年度末時点で農場におけるASF及びCSFの発生がなかったことから本事業の効果があったと評価できる。
	家畜衛生の推進 家畜の伝染性疾病の発生予防 （※R6補正本省繰越）	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱の県内発生件数 0件	達成	適正	令和7年4月に県内の野生イノシシで豚熱の感染が確認されて以降、継続した発生が確認される中、野生イノシシへの豚熱及びアフリカ豚熱のサーベイランスを強化することにより積極的なウイルス浸潤状況の把握を行うことは、農家段階での家畜伝染病発生予防に有効であり、R7年度末時点で農場におけるASF及びCSFの発生がなかったことから本事業の効果があったと評価できる。
	家畜衛生の推進 野生動物の対策強化 （※R7補正予算遡及適用分）	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱の県内発生件数 0件	達成	適正	令和7年4月に県内の野生イノシシで豚熱の感染が確認されて以降、継続した発生が確認される中、野生イノシシへの豚熱及びアフリカ豚熱のサーベイランスを強化することにより積極的なウイルス浸潤状況の把握を行うことは、農家段階での家畜伝染病発生予防に有効であり、R7年度末時点で農場におけるASF及びCSFの発生がなかったことから本事業の効果があったと評価できる。
	家畜衛生の推進 （※R7補正予算高病原性鳥インフルエンザ防疫措置事業遡及適用分）	高病原性鳥インフルエンザのまん延防止	高病原性鳥インフルエンザの県内発生件数 0件	達成	適正	国内で高病原性鳥インフルエンザの発生が多数確認された中、本県においても発生が確認されたものの、迅速な防疫措置を実施することにより更なるまん延を防止することができたと思われる。

（3）食料安全保障確立対策整備交付金（令和5年度事業（令和4年度当初本省繰越）分）

※整備交付金については、事業を実施した年度から起算して三カ年経過した年度に成果のとりまとめ及び事後評価を行う

目的	施設名	目標値、実績値及び達成度				事業評価	
		目標値		実績値	達成度	判定	評価概要
Ⅱ　伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	野生動物侵入防止柵	施設の活用によるバイオセキュリティの向上率	200	200	100%	A	山間部に位置し周辺に野生動物が多い当該農場において、防止柵を設置することは、野生動物の侵入防止に有効であったと評価できる。
Ⅱ　伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	野生動物侵入防止柵	施設の活用によるバイオセキュリティの向上率	200	200	100%	A	新設した畜舎において漏れなく防止柵を設置することは、野生動物の侵入防止に有効であったと評価できる。

別紙

（1）食料安全保障確立対策推進交付金（一般交付型）「Ⅲ 地域での食育の推進」

事業実施主体	事業メニュー	目標項目	目標値	実績	達成度	判定
みやざきの食と農を考える県民会議	1 食育推進検討会の開催 2 食育推進リーダーの育成及び活動の促進 3 食文化の保護・継承のための取組支援 4 農林漁業体験の機会の提供 5 学校給食における地場産物等活用の促進 6 食品ロスの削減に向けた取組 7 課題解決に向けたシンポジウム等の開催	・食文化の継承度	84.0%	85.3%	101%	A
		・食育の推進に関わるボランティア数	150名	135名	90%	
		・農林漁業体験を経験した者の延べ人数	450名	559名	124%	
		・学校給食における地場産物を使用する割合	65.0%	61.0%	93%	
		・食品ロス削減のために何らかの行動をしている者の割合	86.2%	89.7%	104%	
		・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	50.0%	28.6%	57%	